

# 書架方式別（固定書架、集密書架、自動書庫）の概要

参考資料

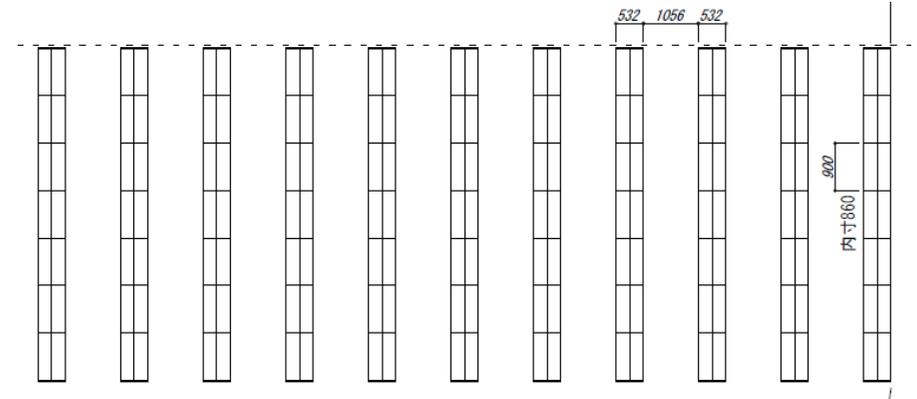
## 固定書架

国立公文書館

北の丸書庫



レイアウトイメージ(※2)



フランス国立公文書館

パリ館

1808年にナポレオン1世により創設され、フランスの中世から革命（1789年）までの国の文書等が所蔵される。本書庫は見学ツアーも開催される。（※1）



ピエールフィット館

個々の資料をボックス単位で管理し、そのボックスを配架して管理。（※1）



## 集密書架

国立公文書館

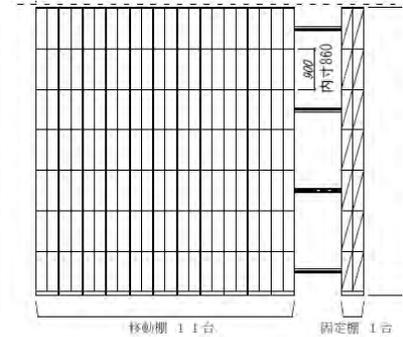
つくば分館書庫



(参考) 電動式集密書架(※2)



レイアウトイメージ(※2)



アメリカ国立公文書記録管理院 (NARA)

アーカイブⅡ

アーカイブⅡでは主に集密書架を採用している(右写真)。具体的な配架方法についてはガイドラインが発効され、平積みと通常配架それぞれについて基準が設けられている。(※1)



カナダ国立図書館・公文書館 (LAC)

ガティノー保存センター

書籍(左写真)、紙類(中央写真)、地図(右写真)の資料の形態に応じて、集密書架の使い分けを行う。いずれも手動式。(※1)

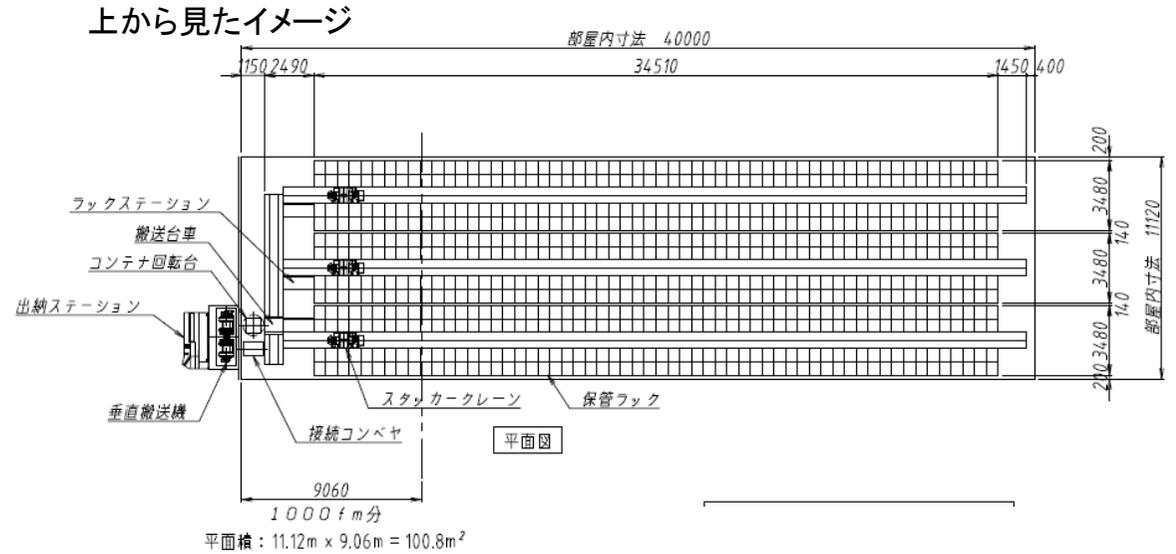


# 自動書庫

## 導入事例(※2)



## レイアウトイメージ(※2)



## 横から見たイメージ

防火防煙シャッター  
出納ステーション  
防火防煙シャッター  
出納ステーション

200  
9955  
10155  
ラック高さ  
架下有効

側面図

※1 「国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査報告書」（平成26年度及び25年度内閣府委託調査）を参考に事務局において作成。

※2 内閣府委託業者（三菱総合研究所）において、文献調査、ヒアリング等を通じて把握した情報を元に整理。